

# F-REDD 2 Newsletter

The Project for Enhancing Sustainable Forest Management in  
Collaboration with REDD+ Programs and REDD+ Funds (F-REDD 2)  
Feb 2022 - Jan 2027

## ラオス国効果的なREDD+資金活用に向けた持続的森林管理能力強化プロジェクト (F-REDD 2)

本プロジェクトはREDD+成果支払いの獲得、および同資金による事業実施を支援しつつ、ラオス森林セクターの今後の優先課題である森林戦略2035の実施体制の強化及びREDD+関連活動のさらなる推進・強化を通じて、ラオスにおける持続的森林管理の能力強化することを目的としています。

## F-REDD 2の3年目突入とJICAミッション

F-REDD 2プロジェクトは3年目に突入です。年末年始で英気を養った後、目の前に控えるそれぞれのタスクに着手しました。

そのような中、JICAミッションが2024年2月中旬に来訪しました。まずは首都ビエンチャンで森林局とこれまでの協力を振り返り、残り3年間にに向けた期待を確認。その後、世界銀行、ドイツ国際協力公社（GIZ）、国際連合食糧農業機関（FAO）の専門家たちとの面談を通じて、JICA支援がもたらす重要な意義と連携に期待が表明されました。ラオスの森林保全の推進という共通目標に向けて、政府や他のパートナーと力を合わせる思いを新たにしました。

その後、ミッションはサバナケット県へと移動し、県のカウンターパートと面談の後、約3時間かけてPhine郡を訪問しました。ランドスケープ管理の対象村の皆さんとお会いして、村の生業や森林との関わりについて教えてもらい、その後は県森林減少モニタリングシステム（PDMS）で検知された森林減少地を視察、さらにドローンを用いた森林モニタリングの様子を見学しました。郡職員はドローン研修の成果を披露し、少々ハラハラしながらも無事にフライトを完了。狙い通りに森林減少地を空撮することができました。

今年も盛り沢山の活動を控えてチーム一同、邁進して行きます。今後のニュースにご期待下さい。



小学校の教室で村の生業と森林の説明に聞き入る

(2024年2月JICAミッション)



ドローン空撮の準備 (2024年2月JICAミッション)



保全林の中にぽっかり現れる森林伐採地 (2024年2月JICAミッション)

## 第4回国家森林インベントリに向けて

ラオス農林省森林局は、2024年～2025年の乾季に第4回国家森林インベントリ（National Forest Inventory：NFI）の実施を計画しています。第2回および第3回NFIは、それぞれ2016年と2019年にF-REDD 2の前身プロジェクトであるF-REDDの技術支援を受け、森林局の森林インベントリ・計画課（Forest Inventory and Planning Division：FIPD）によって実施されました。

NFIとは、森林状況や森林炭素蓄積量を含む森林資源を把握するためのサンプルプロット調査です。例えば、第2回および第3回NFIでは、主なアウトプットの1つとして、ラオスの森林の排出係数（森林が消失した際に排出される二酸化炭素量）を開発するのに必要な炭素蓄積量を、異なる森林タイプごとに調査し、推計しました。

第4回NFIに向けては、統計的な精度を高めるためにサンプリング及びプロットの設計といった手法を見直しているところです。さらに、同じプロットで継続的に調査を行うことで森林の状態や樹木の成長量も評価

できるように、固定プロットを設置することも検討しています。

FIPDは、これらの改良案を現場でテストするため、米国SilvaCarbonプログラムとF-REDD 2の協力のもと、2024年3月下旬から4月上旬にかけてパイロット調査を実施しました。参加者は3つの調査チームと、調査結果の精度を検証するチームに分かれ、3つの地域（シェンクワン県Pek郡、ボリカムサイ県Bolikhann郡、サバナケット県Phine郡）においてそれぞれ6プロットを調査しました。米国森林局からも2名の専門家が調査に参加し、ボリカムサイ県での最初の2日間では、チーム全体に固定プロットの設置や調査方法について様々な指導を行い、その後シェンクワン県では精度検証チームのサポートを行いました。

パイロット調査を受けて、現在、サンプリング及びプロットの設計の最終化を進めています。それをもって、ラオス森林局と第4回NFIの実施方法を議論して行くことになります。



FIPD職員が水平距離を測定している様子



米国森林局の専門家が胸高直径の計測についてガイダンスを行っている様子

## ラオス農林省が県森林減少モニタリングシステム（PDMS）をラオス公式の森林モニタリングツールとして承認しました

ラオス農林省は、この度、県森林減少モニタリングシステム（PDMS）（注）を公式な森林モニタリングツールとして承認しました。この決定は、森林減少に対処するための重要な一歩となります。

PDMSは、先進的なリモートセンシング技術と衛星画像を活用して、森林減少を準リアルタイムでモニタリングするためのシステムです。このシステムは、地方の森林官が効果的かつ効率的に森林減少データを収集・分析し、また違反者に対する行政指導など、適切な対策を講じることを可能とします。

JICAの技術協力プロジェクトを通じて2019年より開発・運用してきたPDMSは、世界銀行やドイツ、NGO等のドナーの協力により、現在、ラオス全18県中15県で運用されています。F-REDD 2は、関係部局との会合や研修等を通じて、森林モニタリングの強化とPDMS実施の促進を側面支援してきました。PDMSの公式承認は、各県での運用実績が評価された結果であり、またラオスの森林保全への取り組みを一層強化するた

めに、PDMSが大きな役割を果たすことの期待の表れでもあります。

一方、PDMSの地方展開において、巡視活動に従事する森林官の不足や頻繁な人事異動、等の運営上の課題も報告されるようになり、地方の森林官に対して継続的に能力強化ができる体制づくりが必要となっています。また、PDMSの持続性の観点から、ラオス側のリソースでシステムの保守管理ができるような体制づくりや能力強化を図る必要があります。このような課題を踏まえ、F-REDD 2では、さらなる森林モニタリングの強化に向けて、中央レベルでの森林モニタリングの実施体制の構築や能力強化に取り組む予定です。

（注）PDMSに関する過去のプロジェクトニュースはこちら。

- ・[県森林減少モニタリングシステムがラオス全国に拡大しつつあります](#)
- ・[ラオス中部、南部における県森林減少モニタリングシステムの推進](#)
- ・[森林モニタリング特集：ラオスの森林モニタリング強化のための「県森林減少早期モニタリングシステム」を紹介します！](#)



PDMS承認文章

（農林省令2761号：2024年5月24日付）



PDMS承認に向けた中央レベル会合

（2023年10月）

## Contact

### F-REDD 2/DOF Office

Kouvieng Street, Sisaket Village,  
Chanthabouli District,  
Vientiane Capital, Laos  
Tel & Fax: 021(22)2536

### F-REDD 2/FIPD Office

Phontong Swath Village, House No.  
386, Unit 44, Chanthabouly District,  
Vientiane, Laos



Ministry of Agriculture  
and Forestry



Japan International  
Cooperation Agency

### Facebook

